



万が一に備えて 阿蘇火山防災訓練



中岳の噴火を想定した「阿蘇火山防災訓練」が11月24日、36の関係機関（約400人）が参加し実施されました。

この訓練は、噴火による災害時の登山者の避難、人命救助などを円滑に行うため、警察や自衛隊、医療機関をはじめとした各機関との協力を密にし、被害の軽減を図るために毎年行われています。

火口付近では、ヘリコプターでの救助や救急車での搬送などが本番さながらに行われ、観光客も訓練の様子に見入っていました。

直木賞作家佐藤雅美さんが 著書を寄贈



著書60冊を寄贈する佐藤雅美氏(左)

両親のふる里が阿蘇市という直木賞作家の佐藤雅美さん（69歳）と、雅美さんの兄でヒューマンホールディングス会長佐藤耕一さん（73歳）が、ヒューマングループが経営するプロバスケットチーム「大阪エヴェッサ」の阿蘇合宿に合わせ来訪され、ゆかりのある阿蘇市へ直木賞受賞作品「恵比寿屋喜兵衛手控え」はじめ著書60冊を寄贈されました。

兄弟共に仕事で大変活躍されていますが、佐藤さんの父親は西町、母親は宮地のご出身で、兄弟お二人も戦時中宮地に疎開するなど、阿蘇は縁の深い大切な地。「大阪エヴェッサ」も九州試合の合間、佐藤さんの協力で阿蘇合宿を行っていただきました。

児童、医師、お年寄りが 「お知らせ端末」で見守り体験



12月2日碧水小学校で県小学校社会科研究大会がありました。5年生では、情報端末システムを活用した授業があり、その中で「お知らせ端末」のテレビ電話を利用した高齢者の見守り体験を行いました。また、波野診療所の医師とも会話し、情報を交換しました。児童は、情報システムが医療や福祉に役立つことや、人と人との繋がりを基盤に活用できることを学びました。6年生では「世界遺産」か「地域開発」かを市長の立場で考える授業も行われ、まさに阿蘇市で現在展開中の2つの事業について、児童がよく調べ、自分たちの住むまちの発展と将来を考えました。

福祉施設で散髪ボランティア



熊本県理容環境衛生同業組合阿蘇支部（西誠治支部長）は12月12日、阿蘇市の福祉施設（みやま荘、たちばな園、あそん里）に出向き、入所者約140人の散髪を無償で行いました。

このボランティアは、毎年、盆前と正月前の2回行われ、40年以上にわたり継続されています。新年を前に散髪してもらった入所者は「気持ちよか〜」と、スッキリした様子で感謝されていました。